

mediorum et bracteolarum villositatem coloremque; a *S. autem sachalinensi* habet praecipue folia recentissima margine valde revoluta et longitudinem styli. Foliorum forma et nervatione adultorum, amentorum forma et magnitudine, bracteolarum forma, glandulae ventralis forma et longitudine, ovariorum forma et stipitum longitudine inter parentes fere media.

—*Folia et flores semper ab eadem stirpe!*—

* * * *

バッコヤナギ *Salix Bakko* Kimura とオノエヤナギ *Salix sachalinensis* Fr. Schmidt との雑種を記載した。これは生物学御研究所の川村文吾氏により那須の旭温泉附近で発見されたものである。筆者は同氏の案内で1970年9月13日現地で成葉を、翌年5月10日に花穂を同一株から採集し、同時に枝を仙台に持ち帰り挿木にして今日迄観察を続けてきた。裸材に隆起線のあること、下出葉が楕円形で幅広く裏面に長軟毛が密生し、ことに第1下出葉がしばしば向軸側正中線近くに現われること、更に中間葉の幅が広く、苞に長軟毛が密生すること等はバッコヤナギからきた形質と考えたい。また、新葉の縁が強く裏面に反卷することや花柱が長いのは、オノエヤナギに由来するものと思う。成葉の形と葉脈の形状、♀花穂の形とその大きさ、苞と腹腺体の形および大きさ、子房の形とその柄の長さ等は両種の間を示すものである。

□ Spector, D. L. (ed.): **Dinoflagellates** 545 pp. 1984. Academic Press, Orland, Florida. ¥25,500. 顕微化学的にたんぱく質ヒストンが検出されず、中間期にも消失しない染色体をもち、セントロメアや紡錘糸を欠くなど、特異な核 mesokaryon (中間核) をもつこと、光合成により栄養物質を生成するが、生長には種々のビタミン類を必要とする auxotroph (栄養要求体) であることなど、渦鞭毛藻類は他の生物群に見られない性質を多くもっている。難しいとされていた人工培養技術が確立されたことから、近年、その細胞学、生理学、生化学、遺伝学などの研究が盛んになってきた。この藻類には、赤潮や水の華を形成するものや毒性物質を生成するものも多くあり、その方面の研究も活発である。14章から成る本書は、最初の数章を分類、形態、核と核分裂、生殖などの記述にあて、一般の読者に親しみの少ない渦鞭毛藻類について全体像を理解させた後に、上述の分野の最近の研究成果を紹介している。執筆者は D. L. Spector, J. D. Dodge, L. A. Pfister, K. A. Steidinger, R. Alfred & Laurel A. Loeblich, B. M. Sweeney, R. R. L. Guillard など、いずれも渦鞭毛藻類の研究で成果を挙げているエキスパート達である。(千原光雄)